

農林水産統計速報

岡山県の協業経営（抄）

農業経営近代化の一環として、協業経営が進展している。

農林省では、この実態をつかむため、昭和36年8月と本年4月に調査を実施した。

まず、協業経営体数を見ると総協業体数は、142で、このうち全面協業は6、部分協業は136となっている。

部門別では養鶏が最高で38、次いで酪農の27、養豚の25と畜産関係が大部分を示めており、耕種関係では果樹茶が23、やさい園芸11となっている。

次に中国各県別に見ると、島根県が最高で191、次いで岡山の142となって、広島、山口、鳥取と続いている。

これを部門別に見ると各県とも養鶏、養豚、果樹茶で大体同一傾向を示しているが、本県の場合、酪農が他県より多いのが目立っている。

協業体の変化を見ると、36年8月調査では、総数98であったものが、38年4月調査では142となっており、約1年半に45の協業体が増加している。

この増加率を中国各県別に見ると、岡山県が最高で、145%、次いで島根の127%、山口123%、鳥取122%、広島118%となっている。

その経緯を見ると、前回調査から継続しているものが82、前回調査以降の新設は60解体17となっている。

農業経営の近代化に大きな希望をもって新設される数も多いが、経営の不振によって解体したものが17あり、経営が如何に困難であるかを知ることができる。

県別	総数		全面協業	総数	部分協業											
	36年8月	38年4月			畜産					耕種					養蚕	その他
					総数	酪農	養豚	養鶏	その他	総数	果樹茶	野菜園芸	稲作	その他		
岡山	98	142	6	136	93	27	25	38	3	38	23	11	2	2	2	3
広島	109	129	7	103	73	12	30	27	4	30	22	3	2	3	4	15
山口	95	117	13	104	77	12	26	35	4	27	21	4	2	—	—	—
島根	150	191	8	146	92	12	45	27	8	54	34	17	1	2	15	22
鳥取	60	73	2	50	39	3	13	18	5	11	9	1	1	—	17	4